2005(前)　　社会科学方法論（4）　　2005.5.13

前回続

・選好の集計と「民主主義の不可能性定理」(K.Arrow)

・　パレート原理（パレート優位、パレート最適）

・センの「自由主義のパラドックス」(参考：私の寝方、部屋の色、スヌーピーの姿勢)

注）Sen の「貧困」に対する考え方(ベンガルの飢饉)

———

＜レポート第１回＞

締め切り：5/19

＊表紙形式はＭＬで送付済み

[1]　テキスト練習問題　[4.1]

[2] テキスト練習問題　[4.2]

[3] テキスト練習問題　[5.1]

[4] 次の文章が述べるところに対し、その是非とその根拠をそれぞれ５００字程度で述べなさい。

「民主主義社会においては、金持ちも貧乏人も等しく一票ずつの権利を有する」

「国際社会において、先進国も開発途上国も等しい発言権を保証される」

[5] 重い腎臓病をわずらう日本の3歳の子供（の両親）は、２００万円出しても移植すべき腎臓がほしい。開発途上国ＸのＡさん（３５歳）は一家７人の大家族を養わなければならず、生活は大変苦しい。家族の全生活費はＸ国の所得水準では約3万円/月である。

Ａさんが自分の腎臓を子供に売ることは、両者の効用を大幅に高める（パレート改善となる）行為である。この交換（市場交換）を止めることはできるか。

[6]　ここにガンの特効薬が1ビンだけある。これを全部服用すればガンが治療できる可能性がある。Ａさんは７５歳の高齢者、Ｂさんは３０歳の若者である。以下のそれぞれの場合、Ａ，Ｂどちらに投与すべきかを、論じる論点を与えなさい。

i)　A,B に所得の差はない場合

ii)　A には薬を買う十分な所得がある場合

iii)　Ｂが女性の場合

———————

次回予告

6 章　不確実性と意思決定　pp.117 -